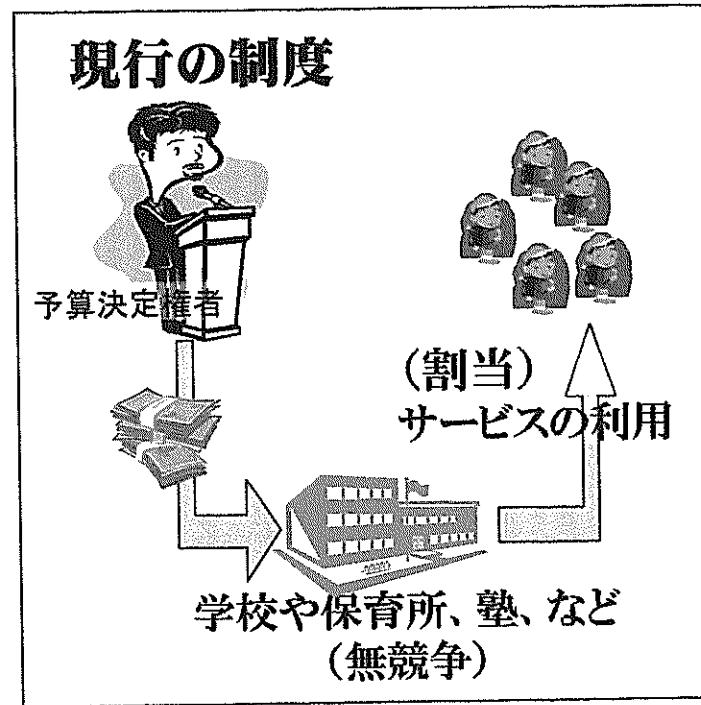
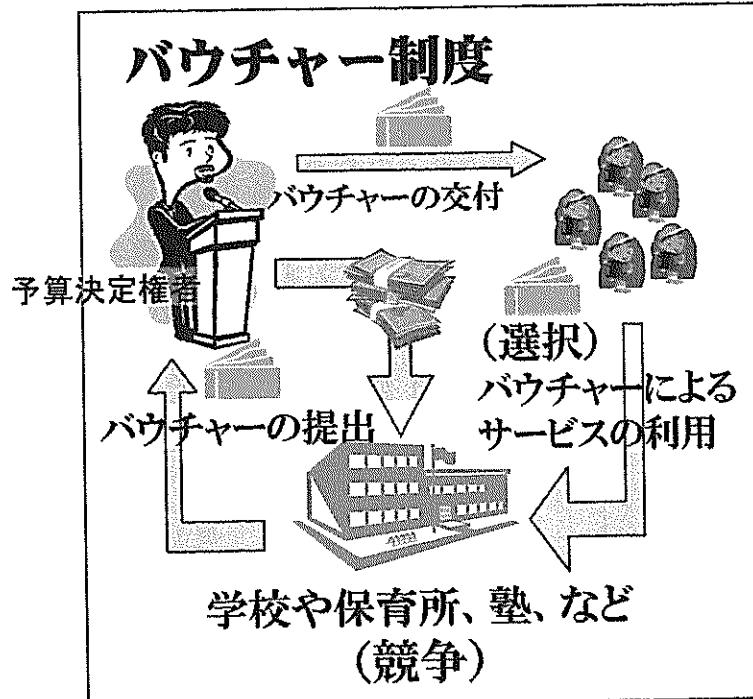


【提案】  
バウチャー制の研究を

斎藤繁子

# 現行の制度とバウチャー制度



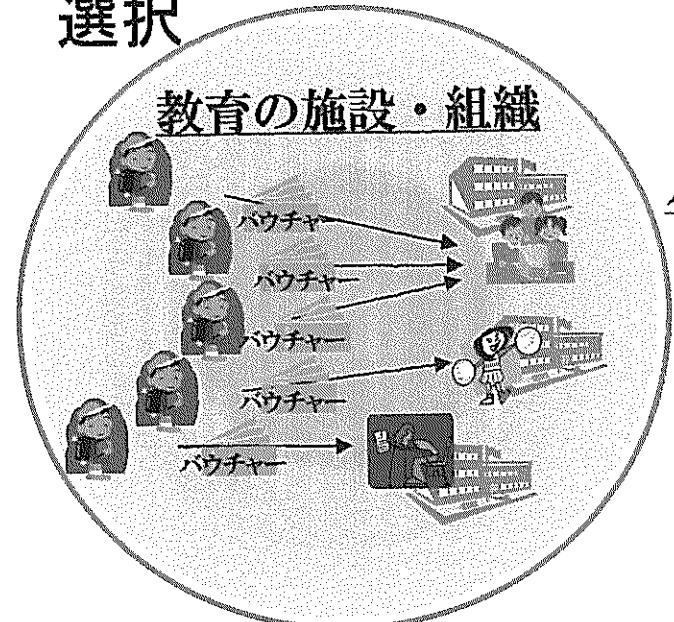
「人、物、金」、教育のための資源に「何がどの程度に必要」かの検証は数多くおこなわれ成果を挙げている。しかし、それらの資源を「何処」へ、「どのように、どの程度」に投入するのかを「どこで、誰が、どのように」検討するのか。そして、その成果を「誰が、どのように評価」し、制度内にノウハウを蓄積するのか。こうした意味で「制度」のあり方そのものが検討されなければならない。





# バウチャー制度の原理

選択



バウチャー券と予算

予算

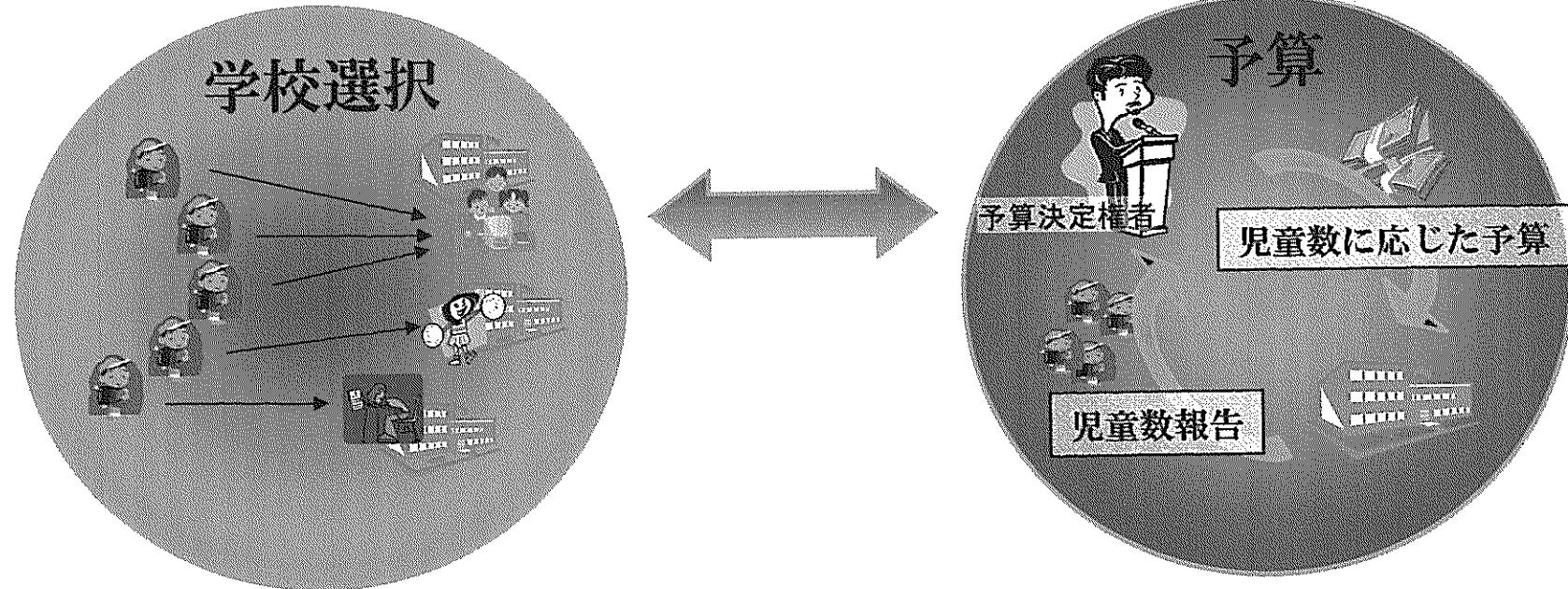


児童生徒の選択により予算が配分される。このことにより、それぞれの施設の運営組織間の競争が生まれ、運営に携わる関係者の切磋琢磨や成果をあげるための創意工夫が促進される。子供たちの学力その他の評価は、子供たちそのものの人間性を評価するものではなく、教師他の学校運営者関係組織の能力を評価する尺度として使われる。





# バウチャーア制度(教育再生会議型)

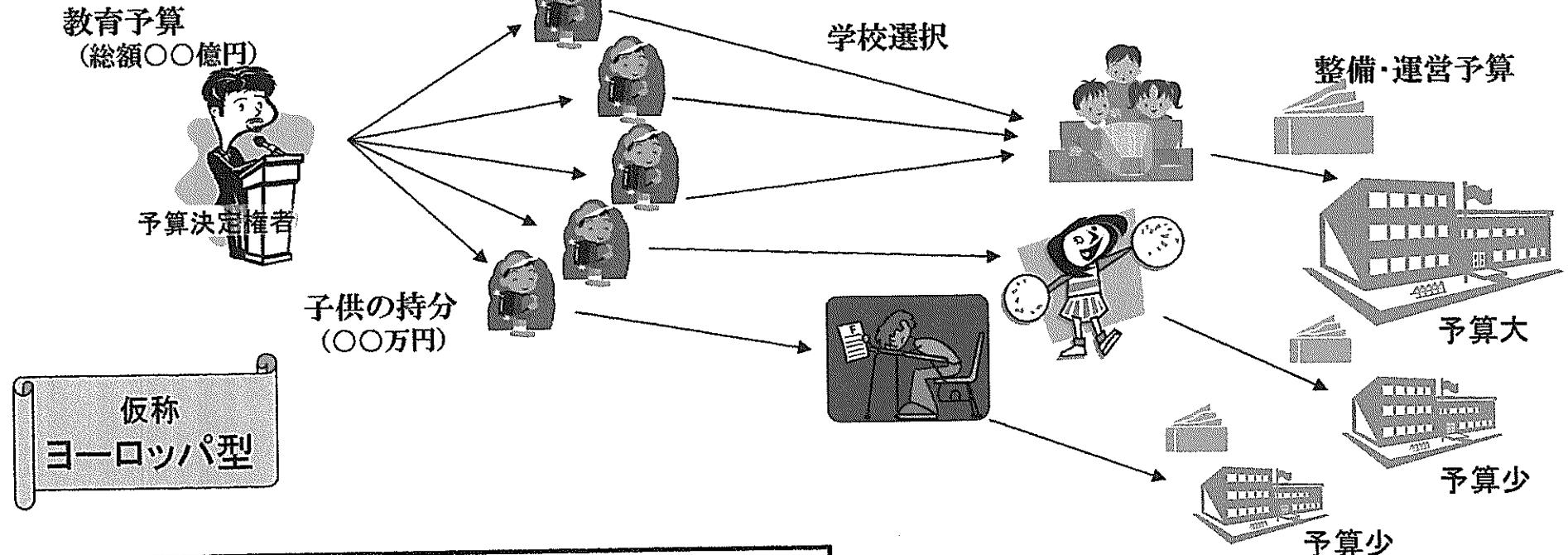


制度や運用や組み立てを誤り、特定の人気校に児童が集中し、結果的に、学校側が児童を選別せざるを得なくなる可能性もあると言われているが、そのようなことになれば、バウチャー制度の理念を喪失することになるのではないかと恐れる。

大事なのは、あくまでも、児童が学校を選択することである。学校が児童を学力テストなどでフリイにかけることであつてはならない。



# 仕組み(学校の運営・整備面から)

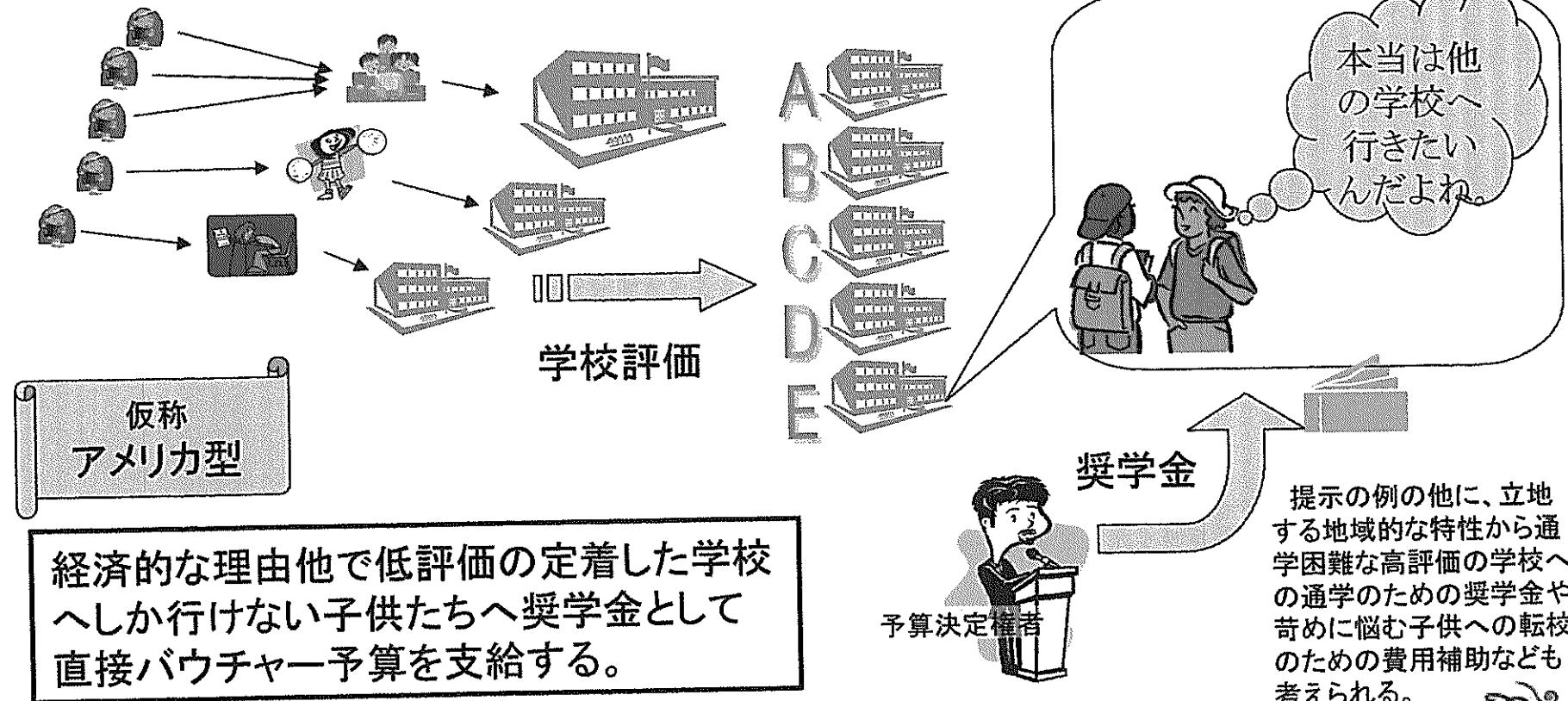


子供に学校を選択させ、選択した  
子供の数に応じた予算を配分する。

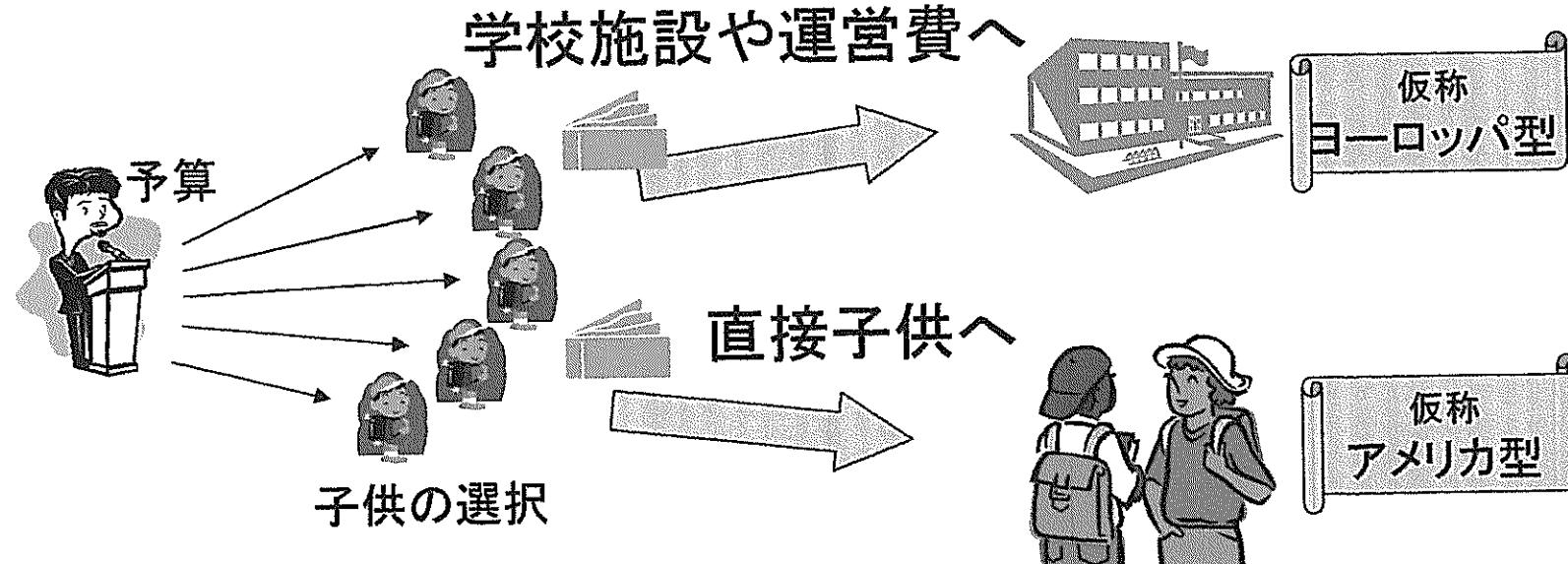
子供に学校を選択させることとは、子供たちに勝手気ままにやらせるということではない。あくまでも、子どもの将来にとって望ましい選択をするということ。



# 仕組み(子供の通学の立場から)



# 仕組み（二つの切り口の確認）



全ての国民を公正平等に扱わなければならないという意味で「教育」の世界と「医療」の世界は似たところがある。それぞれに莫大な税金が投入されている。

しかし、「競争原理」と言う面から見れば全く違う。医療技術進歩の驚くべきスピードや、それに対応した行政の仕組みの改革など見るべきものが多い。

同じような改革と革新が教育の世界でも可能なのではないかと考え、提案する。

# 仕組み（二つの制度で相互補完）



## ◆ 日本型（上田市型の提案）

「ヨーロッパ型」で競争原理の導入

「アメリカ型」で教育機会均等の担保

## 日本社会が抱える二つの問題に取組む教育制度改革

- 1) 政治 産業 社会他、多くの分野での国際的な地位の低下、競争力の低下。
- 2) 歴史に例を見ない成功した均質社会が崩壊、各種格差が表面化。



# 地方都市の社会・経済環境



- 東京との経済的な格差(人・物・金の流失)
- 貧富の差の拡大(非正規労働者の増加)
- 非日本国籍労働者の増加
- コミュニティ喪失(急速な都市の郊外化)
- 人口減・高齢化

避けて通れない経済：社会のグローバル化、そこでは、知的に高度で良質な訓練を受けた者にしか豊かな生活が約束されないように見える。だとするなら、地域の子供たちに夢のある将来を約束するために、制度として必要かつ充分な教育を与えるための環境構築が必要不可欠なものとされる。



# 地方都市特有な教育環境



- 有名私立校の不在、有名塾の不在
- 公共交通機関不整備(私立校や塾への通学困難)
- 文化、芸術などの世界に象徴される「一流」なものとの接触チャンスの欠如
- 人と人との交流で得られるものの質的低下(かろうじて残るコミュニティの質の低下)

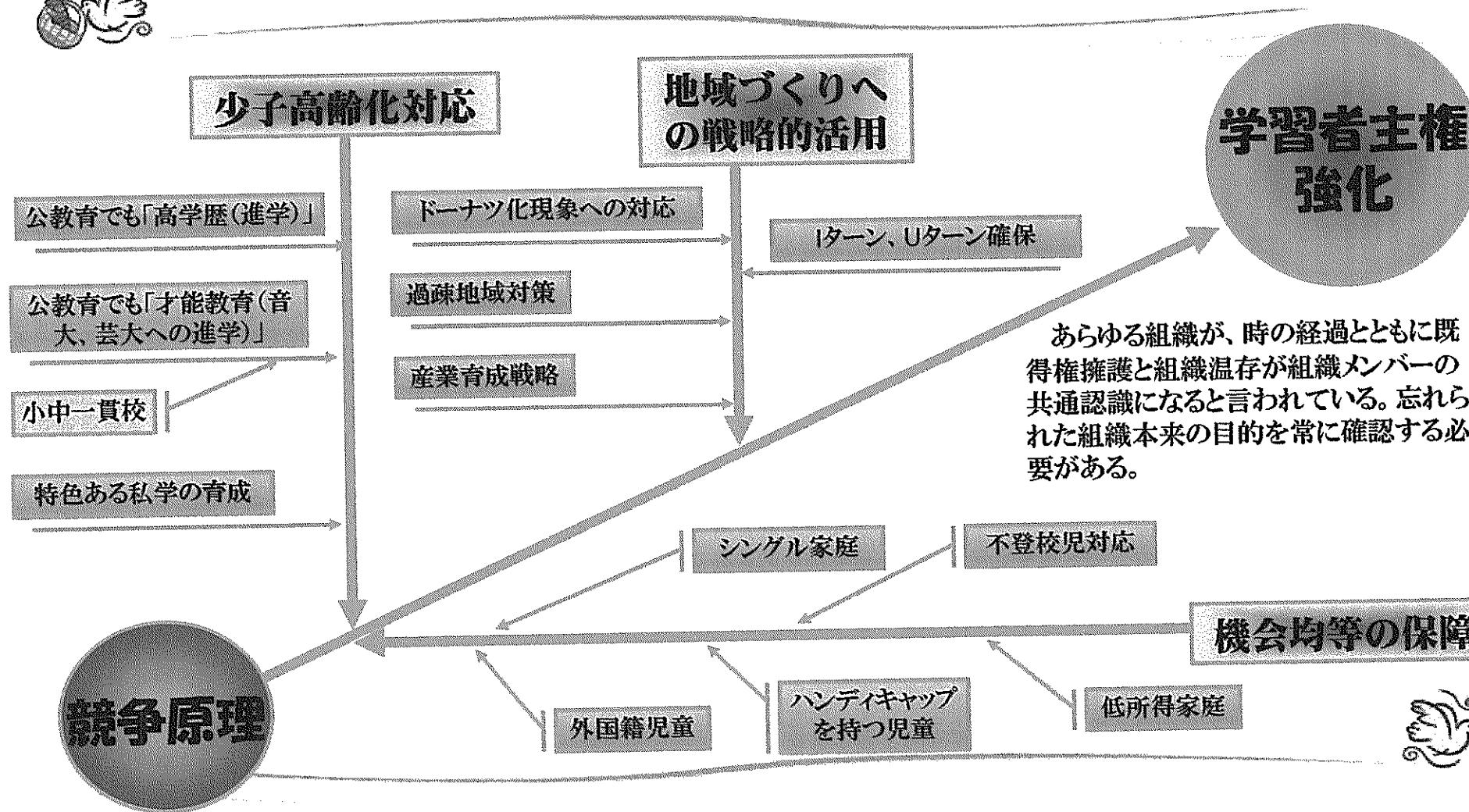
「高学歴が高所得を生み、高所得が高学歴の次世代を生む。」

良いことではない。しかし、厳然たる事実。このままなら「悪循環」となる。  
可能な範囲で数多くの高学歴者を育てるための仕組みも構築すべきと考える。

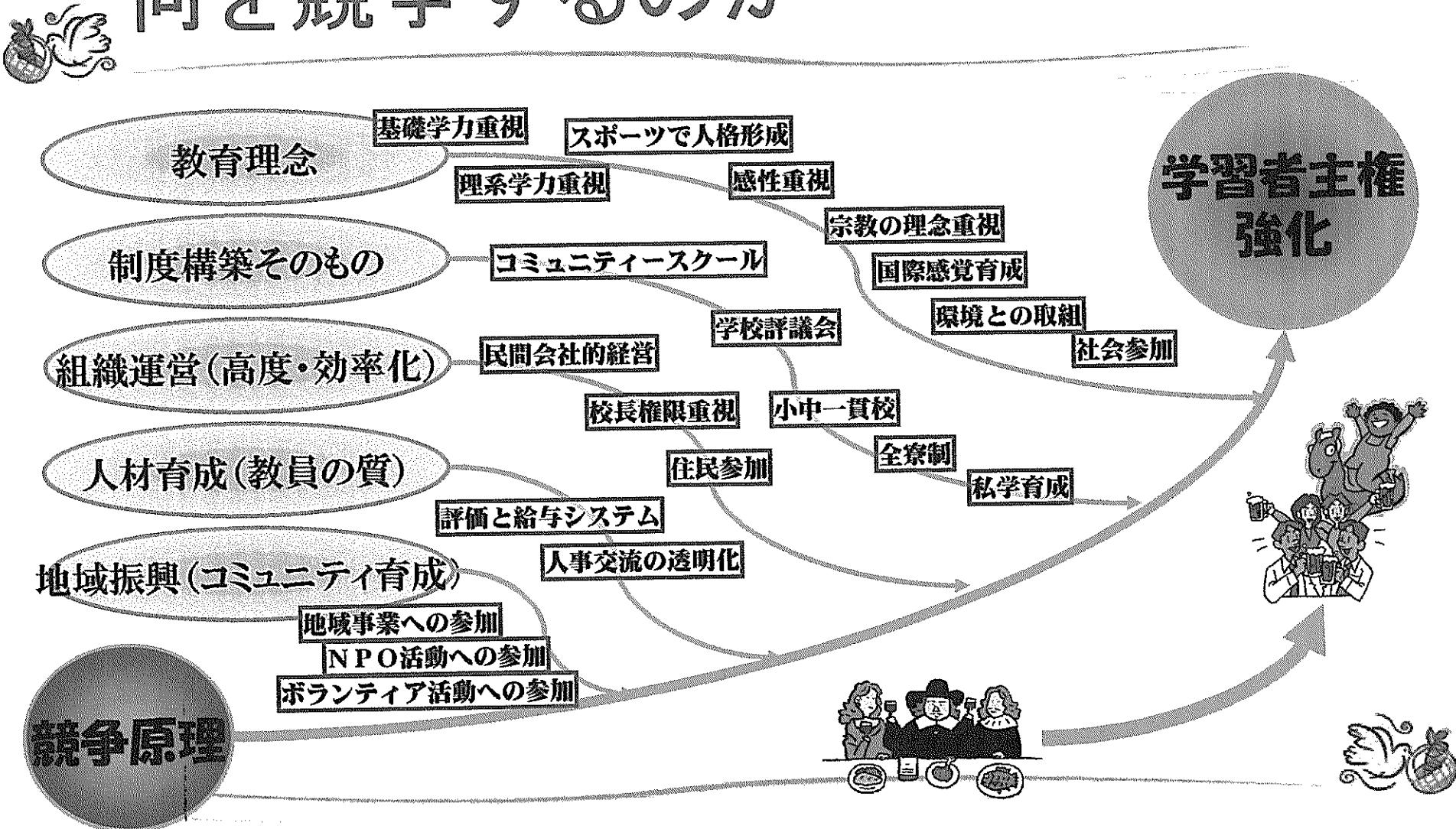




# 「レベルアップ」(競争原理の導入)



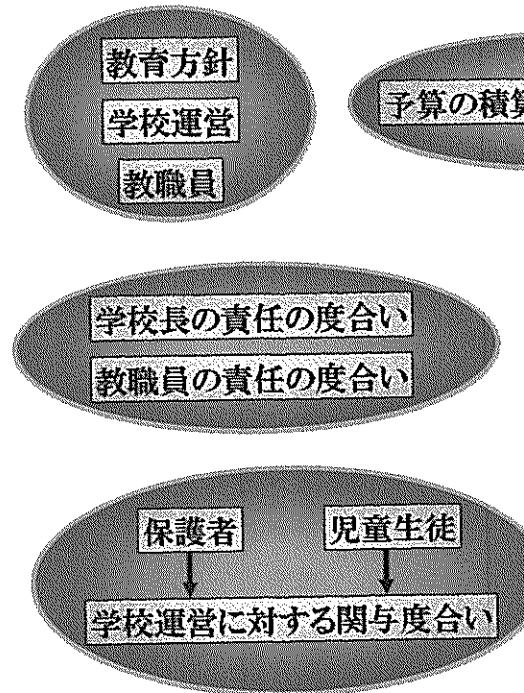
# 何を競争するのか



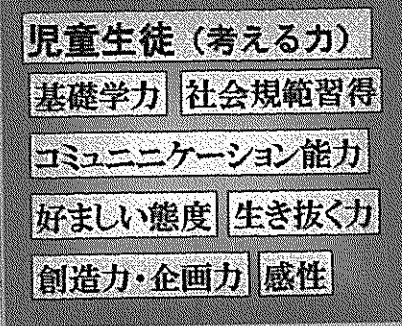
# 評価のための情報公開



## 何を評価するか(評価項目)



## 評価の結果 基本的に全て公開



誰がどのように評価するかの仕組みそのものも公開され、社会の評価を得なければならぬ。

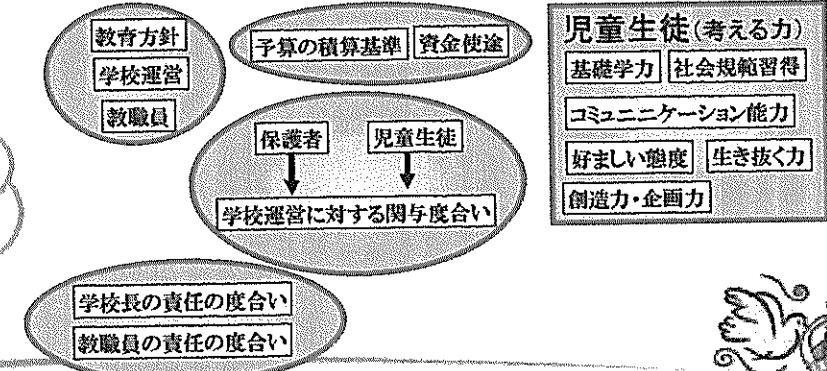
絶対的な権限を持つ審判の下に競技力をきそうスポーツの世界、絶対、唯一の理念は「フェアー」。

それぞれの競技団体が観客動員を競って競争する。

だからこそ、審判の「フェアー」を担保するための仕組みがしっかりと出来ている。

## 情報公開

### (学校選択・バウチャーのための必須条件)



情報が無ければどの  
学校を選んだらよいの  
か分らないよね。



# 最後に



- バウチャーにたいする自己流の解釈により表現しました。
- 間違った理解や表現についてはご指摘下さい。
- このバウチャー制度については日本に根付いていない特殊な概念があり、理解しにくいところがあります。
- しかし、現状は待ったなしで改革がもとめられていると考えています。
- 理事者他、教育関係者のみなさんに研究を深めて頂き、可能であれば、施策として取り入れて頂ければ幸いです。

